

人材育成や災害対応で包括提携

高知県技師会と高知学園大 国内2例目

高知県臨床検査技師会と高知学園大学・高知学園短期大学は3月23日、人材育成や災害対応、共同研究などに関する包括連携の協定を結んだ。技師会による病院見学・体験実習への支援や、大学による社会人編入学制度等の検討、災害時の県技師会臨時事務局の設置などが含まれており、今後具体的な活動について協議を進める。



調印式に臨む高知県技師会の山中会長(右)と、高知学園大の近森学長(左)

包括提携は、県技師会が大学に対し、災害時の臨時事務局設置で協力を要請したのがきっかけ。当初は県技師会と健康科学部・臨床検査学科のみの提携で協議に入ったが、看護学科や歯科衛生学科等も含めた大学全体での包括提携が望ましいとの考えで一致し、最終的に技師会と大学・短期大学との締結となった。高知県技師会の山中茂雄会長によると、県技師会と検査技師養成機関との包括提携は昨年愛媛県に次いで国内2例目という。

包括提携協定を受け、人材育成では、大学での病院見学・体験実習、学生支援を技師会がバックアップする一方で、研修会等の技師会活動で大学施設や設備、備品などの提供を受ける。大学は、特定科目だけを学べる科目等履修生制度の提供や、新

たな社会人編入学制度の導入に向けた検討にも入る。県内中高生への職業体験事業といった検査技師の魅力をアピールする交流活動や、県民向けのさまざまな疾患啓発・予防イベントも共同で進める計画だ。

共同研究では、以前から大学と技師会員が協力してきたが、包括提携によって技師会を通じた協力要請が可能になり、より大規模な検査データの収集・分析などを行う環境が整う見込みだ。大学は、研究活動に必要なノウハウなどを技師会員に提供する機会を設けることも検討する。

災害対応では、高知市が南海トラフ地震による津波リスクの課題がある中で、緊急時に技師会臨時事務局を大学施設内に配置する。災害発生に備えた教育や研修、訓練なども共同で展開する。高知県技師会は、県

との災害協定の締結に向けた交渉も進めている。

同日は包括連携協定の調印後、第1回の連携推進会議も開催した。県技師会と大学それぞれの幹部らが顔合わせを行い、協定に基づく具体的な協議を進める方針を確認。実務者レベルの会合を重ねながら、年1回は推進会議を開く。

大学設備の活用など 「大変ありがたい」

高知県技師会の山中会長は同日、包括提携について本紙の取材に応じ、「大学には検査技師の育成に必要なさまざまな設備や備品がそろっており、研修会などでこうした施設を柔軟に活用させていただけることは非常にありがたい」と説明。その

上で、「技師会としても大学の病院見学や体験、学生支援などでバックアップし、共同研究等に必要データ提供などでも貢献できればと考えている」と述べた。山中会長は高知学園大学臨床検査学科教授も務めている。

高知学園大学健康科学部臨床検査学科の高岡策二教授は、「技師会には学ぶ意欲がある会員も多いので、大学として社会人編入学制度の検討を始めたい。科目等履修生制度でも技師会のニーズに応えることができればと思っており、ウィンウィンの関係になれる」と話している。

県内唯一の臨床検査技師の養成機関である高知学園大学は2020年4月に開学。22年度までは短期大学として52年間で約2500人の技師を輩出している。